

令和6年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会(福岡IH)

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和6年度 全国高等学校総合体育大会 バスケットボール競技大会					
●日程	令和6年8月4日 (日) ~			令和6年8月9日 (金)		
●会場	福岡市総合体育館 他					
●講師	塩谷 禎様、古畑 香子様、岩井 遥河様、平出 剛様、久米 克弥様、村上 恵美様、北沢 あや子様、石鍋 光智代様					
●スケジュール	令和6年8月4日 (日)			福岡市総合体育館(照葉積水ハウスアリーナ)		
	9:00 会場到着 13:30 更衣後PGC、Warm-up 14:20 コートin、コートインスペクション 14:30 実技開始					
●担当試合	令和6年8月4日 (日) 14:30 ~					
対戦カード	文星芸術大学附属高等学校(栃木)		VS		県立宇部工業高等学校(山口)	
主審	主審	及川 学氏(岩手)	U1	荒木 晋之氏(福岡)	U2	河崎
講師/主任	加藤 毅様					
講評	<ul style="list-style-type: none"> 最後までどちらが勝つかわからない拮抗したゲームであったが、それぞれのレフリーがしっかりと判定を下しており、非常に見応えのあるゲームとなった。 時計の訂正に飛び込んだCCは流石であった。他のクルーにも訂正するチャンスはあったと思う。 河崎がCからショットのヒットをコールしたケースだが、プライマリーはLであるため、プライマリーのペイシエントを待ってからセカンダリーとしてケイデンスのタイミングで鳴らせばなお良かった。 河崎のファーストコールはもう少し状況を見てから鳴らしても良かったと思う。その後立て続けに河崎のコールが続いたので不安にはなったが、その後きちんと修正できていたのは良かった。 					
自己の感想	IH初戦であったが、大きく緊張することなく程よい精神状態で臨むことができた。今大会の研修会で取り上げられていた「Basic Mechanics」と「Patient Whistle & Cadence Whistle」という2つのテーマを念頭に置きながら試合に臨んだが、ゲームの序盤にもう少し経過を見てもよいプレーに対して私から早めに笛が入ってしまっていたものもあり、IOTに課題が残った。クルーとしては他のお二方がBasic Mechanics,CCMを發揮してくださり、私もその流れにスムーズに乗ることができた。今後は、自分自身がCCになった場合に他のクルーを引っ張ることができるようにしていきたい。					
●スケジュール	令和6年8月5日 (月)			福岡市総合体育館(照葉積水ハウスアリーナ)		
	9:20 会場到着 10:00 PGC、その後各自更衣を済ませてWarm-up 11:30 コートin、コートインスペクション 11:40 実技開始					
●担当試合	令和6年8月5日 (月) 11:40 ~					
対戦カード	英明高等学校(香川)		VS		岐阜女子高等学校(岐阜)	
主審	主審	村上 恵美氏(本部)	U1	高橋 直子氏(和歌山)	U2	河崎
講師/主任	村上 恵美様					
講評	<ul style="list-style-type: none"> 点差の開いた試合になったが、最後までクルー3人で試合を大きなミスなく運営できたことは良かった。 途中時計が大きく流れた際に止めに行き修正してくれたのは非常に良かった。今後は、コールレフリー以外の時は毎回必ず時計を見る習慣をつけてほしい。 岐阜女子のトラベリングに対して、クルー3人でもっとメッセージを伝える必要があったように思う。 					
自己の感想	JBA本部講師の村上氏と同じクルーになり、PGCの実施の仕方、コート上での立ち振る舞いや両チームに対する判定の一貫性など非常に勉強になった。PGCで、村上氏が全体研修会でもお話されていたエッジの共通理解を持ってゲームに臨み、改めてBasic Mechanicsの大切さを学んだ。時計が流れたケースでは、IHに派遣されるTOチームであってもミスをする可能性があることを頭に入れ、コールレフリー以外であった私が修正できたことは良かったが、正しい時間に修正できていなかったのが今後の課題にしたい。最後に、本大会に参加させていただきました大阪府バスケットボール協会の皆様、本当にありがとうございました。					

令和6年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和6年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会					
●日程	令和6年8月4日 (日) ~ 令和6年8月7日 (水)					
●会場	福岡市総合体育館・福岡市民体育館・アクション福岡					
●講師	岩井 遥河 氏、古畑 香子 氏、平出 剛 氏、北沢あや子 氏 久米 克弥 氏、村上 恵美 氏、石鍋 光智代 氏、塩谷 禎 氏					
●スケジュール	令和6年8月4日 (日)					
	7:20 会場移動 9:30 審判主任 12:30 PGC 14:15 コートin・コートインスペクション 14:30 ゲーム開始					
●担当試合	対戦カード	柳ヶ浦(大分)		VS	天理(奈良)	
	CC	北村	U1	野田氏(熊本)	U2	石川氏(東京)
	講師/主任	皆川 太郎 氏(福岡)				
	講評	メカニクスやクレーそれぞれの笛のタイミングから、クレーワークの良さを感じた。研修会のテーマの1つである、「ペイシエントホイッスル・ケイデンスホイッスル」をクレー全員が意識しているように感じた。そのため、クレー3人ともプライマリの判定を尊重する姿勢はよかったが、明らかなケースや決断が必要なケースで、セカンダリから笛を入れることが望ましいケースもあった。特に、プライマリよりもセカンダリの方がアングルがよいケースでは決断が必要であった。				
	自己の感想	初対面の方を含むクレーだったので、まずはエッジを越えることを課題として、事前連絡やPGCに取り組んだ。PGCでは、改めて研修会のテーマを1つずつ確認し、処置ミスが起こりそうなケースについては、いくつかの事例を用いてディスカッションを行った。ゲームは大きなトラブルなく、終わることができた。ヘルプディフェンダーのメカニクスのケースについても、プライマリレフェリーが判定を続けることができた。				
●スケジュール	令和6年8月5日 (月)					
	9:00 会場移動 割当なしのため、終日視察およびスカウティング					
●スケジュール	令和6年8月6日 (火)					
	9:00 会場移動 12:00 PGC 14:15 コートin・コートインスペクション 14:30 ゲーム開始					

●担当試合	対戦カード	駒大苫小牧(北海道)		VS	福岡第一(福岡)	
	CC	北沢氏(講師)	U1	北村	U2	笹川氏(奈良)
	講師/主任	阿部 ちひろ氏(岩手)				
	講評	<p>クレーでオヴィアスなファウルをコンスタントにコールしながら、テンポセットできていた。ベンチからアピールがあるケースも、必ずクレーの誰かが対応できていてよかった。テクニカルファウルのケースでは、クレーがスムーズに役割分担して対応できればよかった。</p> <p>個人の内容としては、CCMを發揮してゲームをリードしていく姿勢が見られた。声を使ったプレゼンや、ショットクロックの訂正等ができていた。ベンチがUFをアピールしたケースも、該当するクライテリアがないため、正しくNFをコールしていた。</p>				
自己の感想	<p>前日のゲームのスカウティング情報と、メカニクスの確認を中心にPGCを行った。このゲームはCCではなかったが、自分が調べたスカウティング情報も積極的にPGCの話題に出せた。ゲーム前のそのような姿勢が、ゲーム中のCCMの發揮に結び付いたと思う。CC任せになるのではなく、自分もゲームをリードしていく姿勢を見せたいと思っていたので、それができてよかった。テクニカルファウルのケースでは、自分がNFをコールした後、ファウルをされたプレイヤーがリングの支柱を殴ったため、テクニカルファウルとしたが、U2がそのプレイヤーの目の前にいたので、U2がテクニカルファウルをコールする仕草がないことを確認してからコールしてもよかった。</p>					
●スケジュール	令和6年8月7日 (水)					
	8:00 会場移動					
	8:45 PGC					
	9:45 コートin・コートインスペクション					
	10:00 ゲーム開始					
●担当試合	対戦カード	鵬学園(石川)		VS	昭和学院(千葉)	
	CC	阿部氏(岩手)	U1	北村	U2	青木氏(東京)
	講師/主任	古畑 香子氏(講師)				
	講評	<p>ゲームの序盤からコンスタントにファウルコールし、テンポセットできていたが、1Qはプライマリ以外からコールされるケースが多かった。2Q以降はそれが改善された。課題となったのは、ベンチからのアピールの対応。Aコーチは大きなジェスチャーは伴わないものの、不満を表現するような言動があるときには、ベンチや会場にわかりやすくストップサインを出し、その次の同様のケースでテクニカルファウルをコールできるとよかった。</p> <p>個人の内容としては、CCMの發揮の仕方やプレゼンがよかった。一方でオヴィアスでないケースのコールに関しては、映像で振り返る必要があった。クォーターによってテンション(積極性)の違いがあるように見えた。EOG直前でセカンダリとしてコールしたブロッキングは、コールすることへのチャレンジはよかったが、ブロッキングかチャージングかの検証は必要である。</p>				
自己の感想	<p>前日のゲームのスカウティング情報を中心にPGCを行った。前日同様、PGCからCCMを發揮して取り組めた。古畑氏が仰られたように、ベンチからのアピールに対して、どう対応するかが課題であった。クレーがベンチに対応しているときに、自分もそこ関わっていくことはしなかったが、自分が一人で対応するケースでは、ベンチの振る舞いを良くしてもらえるような会話やストップサインで対応するとよかった。</p> <p>EOG直前のファウルコールは、プライマリでないことを理解しつつも、ビックインパクトのためノーコールはありえないという判断から、ケイデンスホイッスルでコールした。本研修会のテーマに沿ったコールだったので、テーマへのチャレンジは出来たと思うが、本当に必要なコールだったのか、またブロッキングが妥当であったのかは、映像を見て検証を行いたいと思う。</p> <p>最後に、本大会に参加させていただきました、大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様、本当にありがとうございました。</p>					